

[研究ノート]

「尾張西国三十三所巡礼」札所のこと

The Amulet Offices of the Thirty-Three Pilgrimage Sites of Owari Province

日 沖 敦 子

Atsuko HIOKI

Studies in Humanities and Cultures

No. 16

名古屋市立大学大学院人間文化研究科『人間文化研究』抜刷 16号

2011年12月

GRADUATE SCHOOL OF HUMANITIES AND SOCIAL SCIENCES

NAGOYA CITY UNIVERSITY

NAGOYA JAPAN

DECEMBER 2011

〔研究ノート〕

「尾張西国三十三所巡礼」札所のこと

日 沖 敦 子

はじめに

- 一 「尾張西国三十三所巡礼」札所関係史料について
- 二 「尾張西国三十三所巡礼」札所と「尾張三十三所巡礼」札所
- 三 「尾張西国三十三所巡礼」札所の由来 ―菩提寺のこと―
- 四 「尾張三十三所巡礼」札所のはじまり
- 五 御詠歌の形態
おわりに

はじめに

西国、坂東、秩父の巡礼が隆盛を極め、やがて各地方でもこれらを模した地方巡礼が行われるようになった。「尾張西国三十三所巡礼」も例外ではなく、全国的に広がる地方巡礼の流れのなかで成立してきたものと考えられる。「尾張西国三十三所巡礼」がいつ頃から始まったかについての詳細は未詳である。しかし、現在確認している御詠歌の写本や一枚刷の順拝地図の成立年などから勘案するに、「尾張西国三十三所巡礼」は十七世紀末頃盛んになったと推察される。名古屋城築城に際し行われた慶長の清洲越以降、暫く後に成立したと考えられ

る。本稿では、今後の調査へ繋ぐべく、まず「尾張西国三十三所巡礼」札所について、現段階で把握するいくつかの史料を整理することからはじめたい。

一 「尾張西国三十三所巡礼」札所関係史料について

現在、筆者が把握している「尾張西国三十三所巡礼」札所に関する史料（書写年代が凡そ明らかなものに限る）は以下の通りである。

【御詠歌関係 写本】

- (A) 名古屋市蓬左文庫蔵『尾張三十三所観音札所・御城下順礼所』写本一冊。薄茶地墨流表紙。明朝綴。外題（左上題簽）「金銀箔散」「札所観音記 附六地藏」。縦十九・六糎、横十三・四糎。墨付十七丁（遊紙七丁）。内容は「尾張三十三所観音札所」「御城下順礼所」「尾張六体地藏」「名護屋六地藏」「七観音縁日」を記す。「尾張三十三所観音札所」「御城下順礼所」は、御詠歌はもとより、各札所の位置、本尊についても記す。蔵書印「蓬左文庫」。後見返裏の反故紙には「元禄十一年（一六九九）十二月（*）（ ）の記述は私付。以下同じ」とある。また、「御城下順礼所」の後には「元禄十六（一七〇三）癸未天三月日写之吉也」と記された奥書がある。名古屋市蓬左文庫分類番号、中二八三。
- (B) 本證寺林松院文庫蔵『尾張国三拾三所順拝御詠歌』

『尾張西国三十三所巡礼』札所のこと（日沖）

二

写本一冊。藍色厚紙表紙。明朝綴。外題「尾張国三拾三所順拝御詠歌」（中央打付）。内題無し。縦二四・八糎、横二〇・四糎。九丁。内容は、各札所や御詠歌を順に記す。表紙右に「嘉永七（一八五四）寅穰反古中依見之掌翫是者東山八代以□□住職亮遍法印書也」（□は破損等により判読不可、以下同じ）とあり、また、三十三番御詠歌の後に「一宮／福寿院亮遍」とある。これらの記載より、「尾張三十三所巡礼札所」二十六番福寿院の僧亮遍により書写された御詠歌の写本であることがわかる。後見返の反故には「明和三年（一七六六）」と確認でき、明和三年以降、遠からざる時期の書写と推察される。

（C）『張州年中行事抄』『名古屋叢書 三編』第八巻 所収

『張州年中行事抄』には、明和六年（一七六九）の自序がある。『名古屋叢書』の解説（市橋鐸氏の旧稿を元に芥子川律治氏が書き改めたもの）は、「おそらくこの書の完結には数年を要したであろうと推定される」とし、明和六年以降数年が本書の成立年であるという見解を示している。

（D）名古屋市蓬左文庫蔵『尾張西国三十三所順礼』（写本一冊）

写本一冊。共紙表紙。大和綴。外題「尾張西国三十三所順礼」（中央打付）。内題「尾張西国三十三所順礼」。縦二一・五糎、横十三・四糎。十三丁。内容は、はじめに各札所を配列し（御詠歌の配列は番数通りではない）、続いて、「三十三所御詠歌」を順に配列する。後表紙に「文久二（一八六二）壬戌年／十二

月吉日／谷口忠左衛門扣」（御詠歌と同筆）とあることから、本書の成立は「文久二年壬戌年（一八六二）」と考えられる。名古屋市蓬左文庫分類番号、雑三二一〇。

【巡礼案内及び地図】

（E）名古屋市蓬左文庫蔵『尾張西国順拝地図』（後掲 参考資料）

一枚物。縦四〇・七糎、横二八・四糎。図中「丹羽郡小杉村布袋野薬屋太蔵施主」。地図中央部「尾張西国三十三所道法札を打かふきやうを御取被成行くれ候所にて坊をたのみとまりてよし□□十分に上□□被成候」とある。旧蔵書印「浅野文庫」「尾崎久弥旧蔵」。名古屋市蓬左文庫分類番号、尾三一八一。

なお、この『順拝地図』の成立年については、一番札所「甚目寺」と二番札所「ほり江」（長谷院、長谷寺）の距離を「八丁」（約八七二m）と記している点が参考になる。長谷院は、慶長十八年（一六一三）の清洲越の際、阿弥陀寺（現、名古屋市中区大須二丁目）の寺内に移されたが、天保十三年（一八三二）に杉屋佐助の尽力により、再び現在地（現、清洲市桃栄三丁目）へ戻されたという経緯がある。よって、『順拝地図』は、天保十三年以降のものであることがわかる（「長谷院」については、拙稿「お伽草子『姥皮』の成立背景」「昔話 研究と資料」三四号、二〇〇六参照）。

（F）名古屋市蓬左文庫蔵『霊場順拝案内』

パンフレット。刊記「昭和六年（一九三一）十月／施主 鳥伊

本店」。名古屋市蓬左文庫分類番号、尾R―二二一。

【所蔵先不明本】

(G) 「尾張卅三所名古屋卅三所並四観音六地藏之記」

↓名古屋市蓬左文庫蔵『西国三十三所展覽会陳列目録』（主催
観音瞻仰会、後援 西国三十三札所／昭和九年九月一日より同
年同月五日まで。会場 名古屋松坂屋、名古屋市蓬左文庫分類
目録、尾B三―三〇）に、「写本一冊。半紙本。伯卿（写）。元
文五（写）。外題「尾張卅三所名古屋卅三所並四観音六地藏之
記」とあり、写本の存在が記されているが、現在、所在不明
である。

【表1】尾張西国三十三所巡礼札所 対校表

（※表の(A)〜(E)は、「尾張西国三十三所巡礼」札所関係史料についての記号に合致する。(C)の十九番には寺院名が記されていない。また、(D)の原本には本来十四番札所であるはずの「安国寺」の札所番号が記されていない。十四番札所として「下いた」の「観音寺」とある。札所番号のない「安国寺」を含めると、(D)の原本には札所が三十四箇所記されており、数が合わない。ここでは「安国寺」の番号を私に補って十四番とし、「観音寺」と十四番に並記する。また、(D)の原本では「安楽寺」「真長寺」の両方が三〇番となっているが、「真長寺」は三十一番の誤りであるため、訂正し、三十一番とした。(E)の原本の二番と三十一番の間には津嶋とある。よって、(C)を付して表に加えた。）

	(A) 蓬左本①	(B) 本證寺本	(C) 張州年中	(D) 蓬左本②	(E) 順拝地図
第一番	一条院扣	甚目寺	一条院	甚目寺	甚目寺
第二番	堀江山長谷院	長谷寺	堀江山長谷寺	長谷寺	ほり江
第三番	谷汲山観音院	無漏寺	谷汲山観音院	観音院	名古屋かや町
第四番	藤嶋山賢林寺	賢林寺	藤嶋山賢林寺	賢林寺	藤嶋
第五番	飛車山龍音寺	龍音寺	飛車山龍音寺	観音寺	間々
第六番	真福寺／寿方院	真福寺	観音寺寿宝院	観音堂	岩崎
第七番	愛藤山小松寺	小松寺	愛藤山小松寺	小松寺	小松寺

二 「尾張西国三十三所巡礼」札所と「尾張三十三所巡礼」札所

さて、「尾張西国三十三所巡礼」札所には、どのような札所あり、どのような経路で巡礼がなされていたのだろうか。まずは、先に挙げた史料のうち、札所が記された(A)〜(E)に記された札所を一覧してみよう(表1)。

各本に記された札所を三十三番まで確認すると、呼称に異なりはあるものの、別称であつて、同寺を指す。現時点で筆者が確認した史料のうち「尾張西国三十三所巡礼」に関する古い記録は、(A)名古屋市蓬左文庫蔵『尾張三十三所観音札所・御城下順礼所』である。これに続くのが、(B)本證寺林松院文庫蔵『尾張国三拾三所順拝御詠歌』となる。

第八番	金剛山大泉寺	大泉寺	金剛山大泉寺	大泉寺	池之内
第九番	勝岳山円福寺	円福寺	勝岳山円福寺	円福寺	白山
第十番	朝宮山大光寺	大光寺	朝宮山大光寺	大光寺	條々
第十一番	松洞山龍泉寺	龍泉寺	松洞山龍泉寺	龍泉寺	龍泉寺
第十二番	岩屋堂	岩屋堂	岩屋堂味鏡山護国寺	護国院	あじま
第十三番	西天山石山寺	石山寺	正天山石山寺	石山寺	せこ
第十四番	国保山安国寺	安楽寺	国保山安国寺	観音寺（安国寺）	下飯田
第十五番	天林山笠覆寺	笠覆寺	天林山笠覆寺	笠覆寺	笠寺
第十六番	祐学院	宮谷	祐覚院	熱田宮寺	あつた 宮谷
第十七番	浄海山観音寺	観音寺	浄海山観音寺	観音寺	あらこ
第十八番	花正山観音寺	西王寺	観音寺	観音寺	花まき
第十九番	栄見寺	栄見寺	（寺名なし）	観音堂	森山
第二〇番	法性山長福寺	長国寺	法性山長福寺	長福寺	はかり
第二一番	補陀山常楽寺	常楽寺	補陀山常楽寺	常楽寺	南口（津嶋）
第二二番	宝樹院	宝樹院	宝珠院	宝珠院	北口（津嶋）
第二三番	大悲山長福寺	長福寺	大悲山長福寺	長福寺	宮毛
第二四番	庭萩山	延命寺	庭篁山近命寺扣	観音寺	宮毛
第二五番	大慈山安楽寺	安楽寺	大慈山安楽寺	安楽寺	舟橋
第二六番	須賀崎山勝福寺福寿院	勝福寺	須賀崎山福寿院	福寿院	一ノ宮
第二七番	永昌山観音寺	観音寺	永昌山観音寺	観音寺	瀬部
第二八番	勅願山長幡寺	長幡寺	勅願山長幡寺	長福寺	赤童子
第二九番	浄蓮寺	常蓮寺	観音堂 旧浄蓮寺と号す	常蓮寺	砂場
第三〇番	安楽寺	安楽寺	安楽寺	安楽寺	宮後
第三一番	小西山信長寺	小西寺	小西山真長寺	（真長寺）	二之宮
第三二番	護心山清水寺	清水寺	口護山清水寺	清水寺	善師野
第三三番	継鹿尾山八葉蓮台寺寂光院	寂光院	継鹿尾山寂光院	寂光院	継鹿尾

さて、これらの史料では、巡礼経路は、一番札所甚目寺観音にはじまり、春日井市、名古屋市、津島市、一宮市、江南市、犬山市の札所をめぐり、犬山市の継鹿尾山八葉蓮台寺寂光院が三十三番札所となっている。実はこれらの札所は、今日知られている「尾張三十三所巡礼」札所とは異なっている。『尾張三十三カ所観音霊場めぐり』（満願寺教化部、一九六九）を見ると、現在知られている「尾張三十三所巡礼」札所の一番札所は大須観音宝生院であり、知多半島、海部郡、稲沢市、岩倉市、犬山市、小牧市、瀬戸市をめぐり、三十三番は八事興正寺で終わるといふ巡礼経路になっている。大須観音宝生院から始まる「尾張三十三所巡礼」札所と甚目寺観音から始まる「尾張西国三十三所巡礼」札所には共通する点もあるが、異なる点も多い。それでは、「尾張西国三十三所巡礼」札所はどのような経緯で成立したのだろうか。

三 「尾張西国三十三所巡礼」札所の由来

―菩提寺のこと―

まず、甚目寺を一番札所とする「尾張西国三十三所巡礼札所」についてであるが、『張州年中行事抄』（以下『行事抄』、明和六年（一七六九）自序）にある「尾張西国三十三所巡礼」〔『行事抄』には「尾張三十三所観音巡礼」とあり呼称は異なるが、札所は「尾張西国三十三所巡礼」にあたる〕の由緒を記した冒頭文には次のようにある。

観音の三十三身普門品には十九応身を説けり。楞嚴經に三十二説あり。本身を合せて三十三身也。法華には妙音三十八の凡聖身を

とけり。是西国三十三所の順礼に准じて參詣す。中比春日井郡品野村菩提寺住侶順礼を貴み、当国の靈仏に詣せしむるの来由、彼寺の石碑に記す。

右の傍線部の菩提寺（現、瀬戸市上品野町）については、『尾張志』六（天保十四年（一八四三）序）に次のようにある。

菩提寺／上品野村にあり。寂場山と号し、吉根村龍泉寺の末寺なり。天平年中、行基菩薩創建し、みづから千手観音の像を作りて安置せし由、いひ伝へたり。

同様の由緒は『尾張徇行記』ほか『張州雜志』にやや詳細に記されているが、菩提寺住職が巡礼した経緯や「彼寺の石碑」については記されていない。菩提寺には「彼寺の石碑」に該当するような石碑は現存しておらず、また度重なる天災により、菩提寺に関する古い記録も残っていない。「彼寺の石碑」にあるという、「尾張西国三十三所巡礼札所」の由来に関する詳細は、現時点では不明である。

また、菩提寺の由緒書は、寺の由来を次のように伝えている。

菩提寺の由来／尾張城東西国三十三観音 第二十九番札所／天台宗 寂場山 菩提寺／菩提寺は千式百六十年前、養海上人によつて開基されました。本堂は千手観世音菩薩を奉り不動明王・毘沙門天・弘法大師・役の行者が安置されています。また本堂東には大正十四年に出雲大社より招福の神「えびす」様を迎えお奉りしてあります。菩提寺は、この地方ばかりでなく国内でも有数な霊山で加持祈祷の道場でした。昭和四年に立派な本堂が焼失してし

まいりました。今の本堂は昭和三十六年に再建されたものです。菩提とは、「正しく最上の覚り」と言う意味だそうです。菩提寺の境内はお釈迦様が一代妙法蓮華経を御説きになった菩提道場にそっくりだそうで、仏縁の深きことが心に浮かべさせられます。合掌／ご詠歌／しなのやま のぼればここに ぼだいじゅの はな さくたねと なるぞうれしき／菩提寺の主な祭司／初えびす 一月五日午前0時より／初弘法 旧暦三月二十一日／観音祭 八月十七日

このほか、平成十五年度に行われた「菩提寺資料調査報告書」によれば、菩提寺の寺宝には次の三点があるという。

【1】絹本着色 不動明王画像 一幅

軸裏に墨書で「（破損、不動力）尊／（破損、享力）」和元歳／武州埼玉郡尾（瓦力）曾根照蓮院香林房演誓求之／文化五戊辰歳二月／譲宏（力）順和尚／大御堂院／香林演誓（花押）」とあり、享和元年（一八〇二）に武蔵国埼玉郡尾（瓦力）曾根（現、埼玉県越谷市）照蓮院の香林坊がこの掛軸を手に入れ、文化五年（一八〇八）に宏（力）順和尚に譲られたことがわかる。

【2】絹本着色 千手観音三尊画像 一幅

軸裏に墨書で「本尊千手観音菩薩」「安政二年六月／現主宝海代新調之／修復施主当村／深見善太／長江音助／長江松重／長江兵蔵／明治三十三年九月／現主鉄浄代右修復」とあり、安政

二年（一八五五）に宝海住職により新調され、明治三十三年（一九〇〇）に修復されたことがわかる。

【3】絹本着色 三宝荒神画像 一幅

軸裏に墨書で「三宝荒神」「弘化二年八月／現主全説代修復／明治三十三年九月／現主鉄浄代修復／修復施主当村／加藤文四郎／深見鉄五郎／同 丑太郎／水野左兵衛」とあり、弘化二年（一八四五）に全説住職により修復され、明治三十三年（一九〇〇）に、【2】の掛軸と共に修復したことがわかる。

しかし、いずれも十九世紀以降のもので、寺の由緒を知る手がかりとはなり得ない。むしろ先に述べた『行事抄』の記述こそ、菩提寺の記録としては古く貴重なものである。

寺の由緒の詳細は不明とせざるを得ないが、実際、草深い寺へ続く小道を歩いていくと、菩薩像や道標が数多く残されている（写真1）（写真2）。風化してしまい、殆ど読むことができないが、一部確認できるものもある。それらの道標に記された文字を確認す



【写真1】菩提寺

るとそのうちの一つに「(□一字アルカ?) 享□□四月二日」とあった。貞享(一六八四～一六八八)、延享(一七四四～一七四八)、享和(一八〇一～一八〇四)のいずれを指すかは不明であり、貞享まで遡るかどうかは難しいとしても、近世後期には遡り得るものである。



【写真2】菩提寺の菩薩像や道標

四 「尾張三十三所巡礼」札所のはじまり

それでは、「尾張西国三十三所巡礼」札所はいつから影を潜め、現行の「尾張三十三所巡礼」札所が隆盛することになったのだろうか。事実、「尾張西国三十三所巡礼」札所と「尾張三十三所巡礼」札所には、番は異なれど、共通する札所が九箇所確認できる(移転などによる所在地の異なりは問題としない)。次に、その九箇所を列挙してみよう。以下、「尾張西国三十三所巡礼」札所を「尾張西国」、「尾張三十三所巡礼」札所を「尾張」と略記する。

- ① 北野山真福寺宝生院
【尾張西国】第六番／【尾張】第一番
- ② 天林山笠覆寺
【尾張西国】第十五番／【尾張】第三番
- ③ 岩屋山岩屋寺
【尾張西国】第十二番／【尾張】第七番
- ④ 浄海山観音寺
【尾張西国】第十七番／【尾張】第十二番
- ⑤ 鳳凰山甚目寺
【尾張西国】第一番／【尾張】第十六番
- ⑥ 継鹿尾山寂光院
【尾張西国】第三番／【尾張】第二十番
- ⑦ 愛藤山小松寺
【尾張西国】第七番／【尾張】第二一番
- ⑧ 小牧山龍音寺
【尾張西国】第五番／【尾張】第二四番
- ⑨ 松洞山龍泉寺
【尾張西国】第十一番／【尾張】第二五番

「尾張西国三十三所巡礼」札所の確かな成立年は明らかではない。しかし、先に述べたように、現在確認する御詠歌書や順拝地図などの成立年から勘案するに、十七世紀末頃盛んになっていったと推察される。一方、「尾張三十三所巡礼」札所の成立は、江戸時代前期以降の「尾張西国三十三所巡礼」札所が、明治維新による廃仏毀釈の影響により衰退し、さらに太平洋戦争による巡礼道の断絶、寺院の焼失など

により、戦後復興しなかったためであると伝えられている。平幡良雄氏『尾張三十三カ所観音霊場めぐり』満願寺教化部、一九六九）によれば、昭和三十三年、信者の呼びかけにより、三十三観音霊場結成の機運が高まり、八事山興正寺で開創大法会が行われ、現行の「尾張三十三所巡礼札所」が設定されたという。

五 御詠歌の形態

さて、下仲一功氏（「巡礼歌（御詠歌）の性質をめぐって」（『巡礼論集1巡礼研究の可能性』岩田書院、二〇〇〇）は、巡礼の歌謡の形式的構造として、「固有名詞の使用比率が、全体として非常に高い」ことを指摘され、「詞章の重層性をもつ意味内容が準備されている」点に巡礼歌謡の面白さがあると述べられている。「尾張西国三十三所巡礼」の御詠歌についても検討したところ、三十三の御詠歌のうち、二十六歌に各寺院名や地名が確認できた。仮に、本證寺林松院文庫蔵『尾張国三十三所順拝御詠歌』に拠り、例を示すならば、二番「堀江山長谷院」御詠歌の「かさゝきの 露の落葉を 尋れば ほり江なふては 如何すむへき」のように、その寺院の所在地や山号を踏まえたもの。そして、七番「小松寺」の御詠歌「山高き小松にかゝるふしなみはむかひの雲をよるかそそみへ」のように、寺院名を掛けたものもある。掛け方は、十番「大光寺」御詠歌「おほきなるひかりの寺と聞時はのちのやみちもたのし身の身や」のように、句に文章化して寺院名を織り込んだ詠歌もある。また、二十一番「常楽寺」御詠歌「あり

かたや千首の道は近くして浄土の道にをもむきそする」のように、本尊（千手観音）を御詠歌に織り込んだ歌もある。下仲氏が御指摘された「詞章の重層性をもつ意味内容」は「尾張西国三十三所巡礼」札所の御詠歌にもやはり共通して確認できる。御詠歌はテキストによって、しばしば文言に異同が見られる。その点については、「尾張西国三十三所巡礼」札所の御詠歌についても言える（表2）。各伝本に記された御詠歌の異同（場合によっては異同のレベルに留まらない大きな相違）は、口承を基本とする、御詠歌の伝承形態の特性を示すものと思われる。

【表2】尾張西国三十三所巡礼札所・尾張三十三所巡礼札所御詠歌 一覧

（※表のA・Bは「1」「尾張西国三十三所巡礼」関係史料についての記号に合致する。また「尾張三十三所巡礼札所御詠歌」の配列は現在行札番号順であり、御詠歌に対応しているわけではない。「尾張三十三所巡礼札所御詠歌」については、平幡長雄氏『尾張三十三所観音霊場めぐり』講談社出版部、一九六九年を参照した）

	第一番	第二番	第三番	第四番	第五番	第六番	第七番	第八番	第九番	第十番	第十一番																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																
「尾張西国三十三所巡礼」札所御詠歌	A たゞたのめしめしか原のさしもくさ我世中にあらんかきりは	A かささきの霧の落葉をたづぬるに堀江のふてはいかく住へし	D たゞたのめしめしか原のさしも草我よの中にあらんかきりわ	A 藤嶋へ暮の舟にたれどもみな法の空にしを結ふかの岸	B ふし嶋にぐせひの舟をこき寄て仏のころにつなく此きし	D おくちかひふしまの山の進林寺いわせのかにむすひ成りめ哉	A 小牧なるひくはの山の絆人は八つある鹿を七ついし哉	B こまきなるひくはの山のかり人は八つ有しかを七ついしかな	D こまきなるひくはの山のかり人は八つあるしかを七つぬしかな	A ふとふにやまはにみへし観音寺仏の誓おもき岩崎	B のふとふに山はにみへし観音寺仏のちかひおもきいはさき	D ほうとうや山葉に見へし観音寺仏のちかひおもき岩たき	A 山崎き小松にかゝるふじなみのむかいの雲もよるかとそよる	B 山崎き小松にかゝるふしなみはむかひの雲をよるかとそみへ	D 山たかき小松にかゝる藤液もむかひのうらのよるかとそみる	A 風高き波しつかなる池の内きよき水にて月をながむる	B 風高きなみしつかなるいけの内きよき水にて月をながむる	D 風高き浪しつかなるいけのうきよきみづにて月をながむる	A おもくともかろくめかれや仁王坂九品の浄土見るにつけても	B おもくとも輕くのほれよにほふ坂九品の浄土をみるにつけても	D おもくともかろくのほれににほうさか九品浄土を見るにつけては	A あふき成光の寺ときく時は後の冥路も頼しき哉	B おほきなるひかりの寺と關時はちのやみちもたのもしの身や	D おほきなるひかり寺ときくときはちのやみちもたのもししかみや	A 皆人はこの山影をたのめたく龍の泉のあらんかきりは	B みな人は此山かけをたのめたくりうのいづみのあらん限りは	D みな人はこの山かけにたのめたく底いづみのあらんかきりは																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																
「尾張三十三所巡礼」札所御詠歌	もののかずおがみめぐりて	つみふかきわがみもやがて	ほとけなりけり	【北野山福壽寺宝生院】	えにしよりめぐみはふかき	長栄寺頼む仏にわが手とられて	【金剛山長栄寺】	みずからはぬれつつわれに	おほいするあまのはやしに	笠はくちせし	【天林山笠覆寺】	にころ世の人を立木の	そのままにすてぬちかひを	だのおばかりぞ	【稻荷山長栄寺】	すくわんと機械もせしは観世音	ちかいもたき石丸の里	【海雲山普門寺】	すくわんと機械もせしは観世音	こまきなるひくはの山のかり人は八つ有しかを七ついしかな	小牧なるひくはの山の絆人は八つある鹿を七ついし哉	こまきなるひくはの山のかり人は八つあるしかを七つぬしかな	ふとふにやまはにみへし観音寺仏の誓おもき岩崎	のふとふに山はにみへし観音寺仏のちかひおもきいはさき	ほうとうや山葉に見へし観音寺仏のちかひおもき岩たき	A 山崎き小松にかゝるふじなみのむかいの雲もよるかとそよる	B 山崎き小松にかゝるふしなみはむかひの雲をよるかとそみへ	D 山たかき小松にかゝる藤液もむかひのうらのよるかとそみる	A 風高き波しつかなる池の内きよき水にて月をながむる	B 風高きなみしつかなるいけの内きよき水にて月をながむる	D 風高き浪しつかなるいけのうきよきみづにて月をながむる	A おもくともかろくめかれや仁王坂九品の浄土見るにつけても	B おもくとも輕くのほれよにほふ坂九品の浄土をみるにつけても	D おもくともかろくのほれににほうさか九品浄土を見るにつけては	A あふき成光の寺ときく時は後の冥路も頼しき哉	B おほきなるひかりの寺と關時はちのやみちもたのもしの身や	D おほきなるひかり寺ときくときはちのやみちもたのもししかみや	A 皆人はこの山影をたのめたく龍の泉のあらんかきりは	B みな人は此山かけをたのめたくりうのいづみのあらん限りは	D みな人はこの山かけにたのめたく底いづみのあらんかきりは																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																			
【大徳山觀音寺】	【大徳山觀音寺】	【大徳山觀音寺】	【大徳山觀音寺】	【大徳山觀音寺】	【大徳山觀音寺】	【大徳山觀音寺】	【大徳山觀音寺】	【大徳山觀音寺】	【大徳山觀音寺】	【大徳山觀音寺】	【大徳山觀音寺】	【大徳山觀音寺】	【大徳山觀音寺】	【大徳山觀音寺】	【大徳山觀音寺】	【大徳山觀音寺】	【大徳山觀音寺】	【大徳山觀音寺】	【大徳山觀音寺】	【大徳山觀音寺】	【大徳山觀音寺】	【大徳山觀音寺】	【大徳山觀音寺】	【大徳山觀音寺】	【大徳山觀音寺】	【大徳山觀音寺】	【大徳山觀音寺】	【大徳山觀音寺】	【大徳山觀音寺】	【大徳山觀音寺】	【大徳山觀音寺】	【大徳山觀音寺】	【大徳山觀音寺】	【大徳山觀音寺】	【大徳山觀音寺】	【大徳山觀音寺】	【大徳山觀音寺】	【大徳山觀音寺】	【大徳山觀音寺】	【大徳山觀音寺】	【大徳山觀音寺】	【大徳山觀音寺】	【大徳山觀音寺】	【大徳山觀音寺】	【大徳山觀音寺】	【大徳山觀音寺】	【大徳山觀音寺】	【大徳山觀音寺】	【大徳山觀音寺】	【大徳山觀音寺】	【大徳山觀音寺】	【大徳山觀音寺】	【大徳山觀音寺】	【大徳山觀音寺】	【大徳山觀音寺】	【大徳山觀音寺】	【大徳山觀音寺】	【大徳山觀音寺】	【大徳山觀音寺】	【大徳山觀音寺】	【大徳山觀音寺】	【大徳山觀音寺】	【大徳山觀音寺】	【大徳山觀音寺】	【大徳山觀音寺】	【大徳山觀音寺】	【大徳山觀音寺】	【大徳山觀音寺】	【大徳山觀音寺】	【大徳山觀音寺】	【大徳山觀音寺】	【大徳山觀音寺】	【大徳山觀音寺】	【大徳山觀音寺】	【大徳山觀音寺】	【大徳山觀音寺】	【大徳山觀音寺】	【大徳山觀音寺】	【大徳山觀音寺】	【大徳山觀音寺】	【大徳山觀音寺】	【大徳山觀音寺】	【大徳山觀音寺】	【大徳山觀音寺】	【大徳山觀音寺】	【大徳山觀音寺】	【大徳山觀音寺】	【大徳山觀音寺】	【大徳山觀音寺】	【大徳山觀音寺】	【大徳山觀音寺】	【大徳山觀音寺】	【大徳山觀音寺】	【大徳山觀音寺】	【大徳山觀音寺】	【大徳山觀音寺】	【大徳山觀音寺】	【大徳山觀音寺】	【大徳山觀音寺】	【大徳山觀音寺】	【大徳山觀音寺】	【大徳山觀音寺】	【大徳山觀音寺】	【大徳山觀音寺】	【大徳山觀音寺】	【大徳山觀音寺】	【大徳山觀音寺】	【大徳山觀音寺】	【大徳山觀音寺】	【大徳山觀音寺】	【大徳山觀音寺】	【大徳山觀音寺】	【大徳山觀音寺】	【大徳山觀音寺】	【大徳山觀音寺】	【大徳山觀音寺】	【大徳山觀音寺】	【大徳山觀音寺】	【大徳山觀音寺】	【大徳山觀音寺】	【大徳山觀音寺】	【大徳山觀音寺】	【大徳山觀音寺】	【大徳山觀音寺】	【大徳山觀音寺】	【大徳山觀音寺】	【大徳山觀音寺】	【大徳山觀音寺】	【大徳山觀音寺】	【大徳山觀音寺】	【大徳山觀音寺】	【大徳山觀音寺】	【大徳山觀音寺】	【大徳山觀音寺】	【大徳山觀音寺】	【大徳山觀音寺】	【大徳山觀音寺】	【大徳山觀音寺】	【大徳山觀音寺】	【大徳山觀音寺】	【大徳山觀音寺】	【大徳山觀音寺】	【大徳山觀音寺】	【大徳山觀音寺】	【大徳山觀音寺】	【大徳山觀音寺】	【大徳山觀音寺】	【大徳山觀音寺】	【大徳山觀音寺】	【大徳山觀音寺】	【大徳山觀音寺】	【大徳山觀音寺】	【大徳山觀音寺】	【大徳山觀音寺】	【大徳山觀音寺】	【大徳山觀音寺】	【大徳山觀音寺】	【大徳山觀音寺】	【大徳山觀音寺】	【大徳山觀音寺】	【大徳山觀音寺】	【大徳山觀音寺】	【大徳山觀音寺】	【大徳山觀音寺】	【大徳山觀音寺】	【大徳山觀音寺】	【大徳山觀音寺】	【大徳山觀音寺】	【大徳山觀音寺】	【大徳山觀音寺】	【大徳山觀音寺】	【大徳山觀音寺】	【大徳山觀音寺】	【大徳山觀音寺】	【大徳山觀音寺】	【大徳山觀音寺】	【大徳山觀音寺】	【大徳山觀音寺】	【大徳山觀音寺】	【大徳山觀音寺】	【大徳山觀音寺】	【大徳山觀音寺】	【大徳山觀音寺】	【大徳山觀音寺】	【大徳山觀音寺】	【大徳山觀音寺】	【大徳山觀音寺】	【大徳山觀音寺】	【大徳山觀音寺】	【大徳山觀音寺】	【大徳山觀音寺】	【大徳山觀音寺】	【大徳山觀音寺】	【大徳山觀音寺】	【大徳山觀音寺】	【大徳山觀音寺】	【大徳山觀音寺】	【大徳山觀音寺】	【大徳山觀音寺】	【大徳山觀音寺】	【大徳山觀音寺】	【大徳山觀音寺】	【大徳山觀音寺】	【大徳山觀音寺】	【大徳山觀音寺】	【大徳山觀音寺】	【大徳山觀音寺】	【大徳山觀音寺】	【大徳山觀音寺】	【大徳山觀音寺】	【大徳山觀音寺】	【大徳山觀音寺】	【大徳山觀音寺】	【大徳山觀音寺】	【大徳山觀音寺】	【大徳山觀音寺】	【大徳山觀音寺】	【大徳山觀音寺】	【大徳山觀音寺】	【大徳山觀音寺】	【大徳山觀音寺】	【大徳山觀音寺】	【大徳山觀音寺】	【大徳山觀音寺】	【大徳山觀音寺】	【大徳山觀音寺】	【大徳山觀音寺】	【大徳山觀音寺】	【大徳山觀音寺】	【大徳山觀音寺】	【大徳山觀音寺】	【大徳山觀音寺】	【大徳山觀音寺】	【大徳山觀音寺】	【大徳山觀音寺】	【大徳山觀音寺】	【大徳山觀音寺】	【大徳山觀音寺】	【大徳山觀音寺】	【大徳山觀音寺】	【大徳山觀音寺】	【大徳山觀音寺】	【大徳山觀音寺】	【大徳山觀音寺】	【大徳山觀音寺】	【大徳山觀音寺】	【大徳山觀音寺】	【大徳山觀音寺】	【大徳山觀音寺】	【大徳山觀音寺】	【大徳山觀音寺】	【大徳山觀音寺】	【大徳山觀音寺】	【大徳山觀音寺】	【大徳山觀音寺】	【大徳山觀音寺】	【大徳山觀音寺】	【大徳山觀音寺】	【大徳山觀音寺】	【大徳山觀音寺】	【大徳山觀音寺】	【大徳山觀音寺】	【大徳山觀音寺】	【大徳山觀音寺】	【大徳山觀音寺】	【大徳山觀音寺】	【大徳山觀音寺】	【大徳山觀音寺】	【大徳山觀音寺】	【大徳山觀音寺】	【大徳山觀音寺】	【大徳山觀音寺】	【大徳山觀音寺】	【大徳山觀音寺】	【大徳山觀音寺】	【大徳山觀音寺】	【大徳山觀音寺】	【大徳山觀音寺】	【大徳山觀音寺】	【大徳山觀音寺】	【大徳山觀音寺】	【大徳山觀音寺】	【大徳山觀音寺】	【大徳山觀音寺】	【大徳山觀音寺】	【大徳山觀音寺】	【大徳山觀音寺】	【大徳山觀音寺】	【大徳山觀音寺】	【大徳山觀音寺】	【大徳山觀音寺】	【大徳山觀音寺】	【大徳山觀音寺】	【大徳山觀音寺】	【大徳山觀音寺】	【大徳山觀音寺】	【大徳山觀音寺】	【大徳山觀音寺】	【大徳山觀音寺】	【大徳山觀音寺】	【大徳山觀音寺】	【大徳山觀音寺】	【大徳山觀音寺】	【大徳山觀音寺】	【大徳山觀音寺】	【大徳山觀音寺】	【大徳山觀音寺】	【大徳山觀音寺】	【大徳山觀音寺】	【大徳山觀音寺】	【大徳山觀音寺】	【大徳山觀音寺】	【大徳山觀音寺】	【大徳山觀音寺】	【大徳山觀音寺】	【大徳山觀音寺】	【大徳山觀音寺】	【大徳山觀音寺】	【大徳山觀音寺】	【大徳山觀音寺】	【大徳山觀音寺】	【大徳山觀音寺】	【大徳山觀音寺】	【大徳山觀音寺】	【大徳山觀音寺】	【大徳山觀音寺】	【大徳山觀音寺】	【大徳山觀音寺】	【大徳山觀音寺】	【大徳山觀音寺】	【大徳山觀音寺】	【大徳山觀音寺】	【大徳山觀音寺】	【大徳山觀音寺】	【大徳山觀音寺】	【大徳山觀音寺】	【大徳山觀音寺】	【大徳山觀音寺】	【大徳山觀音寺】	【大徳山觀音寺】	【大徳山觀音寺】	【大徳山觀音寺】	【大徳山觀音寺】	【大徳山觀音寺】	【大徳山觀音寺】	【大徳山觀音寺】	【大徳山觀音寺】	【大徳山觀音寺】	【大徳山觀音寺】	【大徳山觀音寺】	【大徳山觀音寺】	【大徳山觀音寺】	【大徳山觀音寺】	【大徳山觀音寺】	【大徳山觀音寺】	【大徳山觀音寺】	【大徳山觀音寺】	【大徳山觀音寺】	【大徳山觀音寺】	【大徳山觀音寺】	【大徳山觀音寺】	【大徳山觀音寺】	【大徳山觀音寺】	【大徳山觀音寺】	【大徳山觀音寺】	【大徳山觀音寺】	【大徳山觀音寺】	【大徳山觀音寺】	【大徳山觀音寺】	【大徳山觀音寺】	【大徳山觀音寺】	【大徳山觀音寺】	【大徳山觀音寺】	【大徳山觀音寺】	【大徳山觀音寺】	【大徳山觀音寺】	【大徳山觀音寺】	【大徳山觀音寺】	【大徳山觀音寺】	【大徳山觀音寺】	【大徳山觀音寺】	【大徳山觀音寺】	【大徳山觀音寺】	【大徳山觀音寺】	【大徳山觀音寺】	【大徳山觀音寺】	【大徳山觀音寺】	【大徳山觀音寺】	【大徳山觀音寺】	【大徳山觀音寺】	【大徳山觀音寺】	【大徳山觀音寺】	【大徳山觀音寺】	【大徳山觀音寺】	【大徳山觀音寺】	【大徳山觀音寺】	【大徳山觀音寺】	【大徳山觀音寺】	【大徳山觀音寺】	【大徳山觀音寺】	【大徳山觀音寺】	【大徳山觀音寺】	【大徳山觀音寺】	【大徳山觀音寺】	【大徳山觀音寺】	【大徳山觀音寺】	【大徳山觀音寺】	【大徳山觀音寺】	【大徳山觀音寺】	【大徳山觀音寺】	【大徳山觀音寺】	【大徳山觀音寺】	【大徳山觀音寺】	【大徳山觀音寺】	【大徳山觀音寺】	【大徳山觀音寺】	【大徳山觀音寺】	【大徳山觀音寺】	【大徳山觀音寺】	【大徳山觀音寺】	【大徳山觀音寺】	【大徳山觀音寺】	【大徳山觀音寺】	【大徳山觀音寺】	【大徳山觀音寺】	【大徳山觀音寺】	【大徳山觀音寺】	【大徳山觀音寺】	【大徳山觀音寺】	【大徳山觀音寺】	【大徳山觀音寺】	【大徳山觀音寺】	【大徳山觀音寺】	【大徳山觀音寺】	【大徳山觀音寺】	【大徳山觀音寺】	【大徳山觀音寺】	【大徳山觀音寺】	【大徳山觀音寺】	【大徳山觀音寺】	【大徳山觀音寺】	【大徳山觀音寺】	【大徳山觀音寺】	【大徳山觀音寺】	【大徳山觀音寺】	【大徳山觀音寺】	【大徳山觀音寺】	【大徳山觀音寺】	【大徳山觀音寺】	【大徳山觀音寺】	【大徳山觀音寺】	【大徳山觀音寺】	【大徳山觀音寺】	【大徳山觀音寺】	【大徳山觀音寺】	【大徳山觀音寺】	【大徳山觀音寺】	【大徳山觀音寺】	【大徳山觀音寺】	【大徳山觀音寺】	【大徳山觀音寺】	【大徳山觀音寺】	【大徳山觀音寺】	【大徳山觀音寺】	【大徳山觀音寺】	【大徳山觀音寺】	【大徳山觀音寺】	【大徳山觀音寺】	【大徳山觀音寺】	【大徳山觀音寺】	【大徳山觀音寺】	【大徳山觀音寺】	【大徳山觀音寺】	【大徳山觀音寺】	【大徳山觀音寺】	【大徳山觀音寺】	【大徳山觀音寺】	【大徳山觀音寺】	【大徳山觀音寺】	【大徳山觀音寺】	【大徳山觀音寺】	【大徳山觀音寺】	【大徳山觀音寺】	【大徳山觀音寺】	【大徳山觀音寺】	【大徳山觀音寺】	【大徳山觀音寺】	【大徳山觀音寺】	【大徳山觀音寺】	【大徳山觀音寺】	【大徳山觀音寺】	【大徳山觀音寺】	【大徳山觀音寺】	【大徳山觀音寺】	【大徳山觀音寺】	【大徳山觀音寺】	【大徳山觀音寺】	【大徳山觀音寺】	【大徳山觀音寺】	【大徳山觀音寺】	【大徳山觀音寺】	【大徳山觀音寺】	【大徳山觀音寺】	【大徳山觀音寺】	【大徳山觀音寺】	【大徳山觀音寺】	【大徳山觀音寺】	【大徳山觀音寺】	【大徳山觀音寺】	【大徳山觀音寺】	【大徳山觀音寺】	【大徳山觀音寺】	【大徳山觀音寺】	【大徳山觀音寺】	【大徳山觀音寺】	【大徳山觀音寺】	【大徳山觀音寺】	【大徳山觀音寺】	【大徳山觀音寺】	【大徳山觀音寺】	【大徳山觀音寺】	【大徳山觀音寺】	【大徳山觀音寺】	【大徳山觀音寺】	【大徳山觀音寺】	【大徳山觀音寺】	【大徳山觀音寺】	【大徳山觀音寺】	【大徳山觀音寺】	【大徳山觀音寺】	【大徳山觀音寺】	【大徳山觀音寺】	【大徳山觀音寺】	【大徳山觀音寺】	【大徳山觀音寺】	【大徳山觀音寺】	【大徳山觀音寺】	【大徳山觀音寺】	【大徳山觀音寺】	【大徳山觀音寺】	【大徳山觀音寺】	【大徳山觀音寺】	【大徳山觀音寺】	【大徳山觀音寺】	【大徳山觀音寺】	【大徳山觀音寺】	【大徳山觀音寺】	【大徳山觀音寺】	【大徳山觀音寺】	【大徳山觀音寺】	【大徳山觀音寺】	【大徳山觀音寺】	【大徳山觀音寺】	【大徳山觀音寺】	【大徳山觀音寺】	【大徳山觀音寺】	【大徳山觀音寺】	【大徳山觀音寺】	【大徳山觀音寺】	【大徳山觀音寺】	【大徳山觀音寺】	【大徳山觀音寺】	【大徳山觀音寺】	【大徳山觀音寺】	【大徳山觀音寺】	【大徳山觀音寺】	【大徳山觀音寺】	【大徳山觀音寺】	【大徳山觀音寺】	【大徳山觀音寺】	【大徳山觀音寺】	【大徳山觀音寺】	【大徳山觀音寺】	【大徳山觀音寺】	【大徳山觀音寺】	【大徳山觀音寺】	【大徳山觀音寺】	【大徳山觀音寺】	【大徳山觀音寺】	【大徳山觀音寺】	【大徳山觀音寺】	【大徳山觀音寺】	【大徳山觀音寺】	【大徳山觀音寺】	【大徳山觀音寺】	【大徳山觀音寺】	【大徳山觀音寺】	【大徳山觀音寺】	【大徳山觀音寺】	【大徳山觀音寺】	【大徳山觀音寺】	【大徳山觀音寺】	【大徳山觀音寺】	【大徳山觀音寺】	【大徳山觀音寺】	【大徳山觀音寺】	【大徳山觀音寺】	【大徳山觀音寺】	【大徳山觀音寺】	【大徳山觀音寺】	【大徳山觀音寺】	【大徳山觀音寺】	【大徳山觀音寺】	【大徳山觀音寺】	【大徳山觀音寺】	【大徳山觀音寺】	【大徳山觀音寺】	【大徳山觀音寺】	【大徳山觀音寺】	【大徳山觀音寺】	【大徳山觀音寺】	【大徳山觀音寺】	【大徳山觀音寺】	【大徳山觀音寺】	【大徳山觀音寺】	【大徳山觀音寺】	【大徳山觀音寺】	【大徳山觀音寺】	【大徳山觀音寺】	【大徳山觀音寺】	【大徳山觀音寺】	【大徳山觀音寺】	【大徳山觀音寺】	【大徳山觀音寺】	【大徳山觀音寺】	【大徳山觀音寺】	【大徳山觀音寺】	【大徳山觀音寺】	【大徳山觀音寺】	【大徳山觀音寺】	【大徳山觀音寺】	【大徳山觀音寺】	【大徳山觀音寺】	【大徳山觀音寺】	【大徳山觀音寺】	【大徳山觀音寺】	【大徳山觀音寺】	【大徳山觀音寺】	【大徳山觀音寺】	【大徳山觀音寺】	【大徳山觀音寺】	【大徳山觀音寺】	【大徳山觀音寺】	【大徳山觀音寺】	【大徳山觀音寺】	【大徳山觀音寺】	【大徳山觀音寺】	【大徳山觀音寺】	【大徳山觀音寺】	【大徳山觀音寺】	【大徳山觀音寺】	【大徳山觀音寺】	【大徳山觀音寺】	【大徳山觀音寺】	【大徳山觀音寺】	【大徳山觀音寺】	【大徳山觀音寺】	【大徳山觀音寺】	【大徳山觀音寺】	【大徳山觀音寺】	【大徳山觀音寺】	【大徳山觀音寺】	【大徳山觀音寺】	【大徳山觀音寺】	【大徳山觀音寺】	【大徳山觀音寺】	【大徳山觀音寺】	【大徳山觀音寺】	【大徳山觀音寺】	【大徳山觀音寺】	【大徳山觀音寺】	【大徳山觀音寺】	【大徳山觀音寺】	【大徳山觀音寺】	【大徳山觀音寺】	【大徳山觀音寺】	【大徳山觀音寺】	【大徳山觀音寺】	【大徳山觀音寺】	【大徳山觀音寺】	【大徳山觀音寺】	【大徳山觀音寺】	【大徳山觀音寺】	【大徳山觀音寺】	【大徳山觀音寺】	【大徳山觀音寺】	【大徳山觀音寺】	【大徳山觀音寺】	【大徳山觀音寺】	【大徳山觀音寺】	【大徳山觀音寺】	【大徳山觀音寺】	【大徳山觀音寺】	【大徳山觀音寺】	【大徳山觀音寺】	【大徳山觀音寺】	【大徳山觀音寺】	【大徳山觀音寺】	【大徳山觀音寺】	【大徳山觀音寺】	【大徳山觀音寺】	【大徳山觀音寺】	【大徳山觀音寺】	【大徳山觀音寺】	【大徳山觀音寺】	【大徳山觀音寺】	【大徳山觀音寺】	【大徳山觀音寺】	【大徳山觀音寺】	【大徳山觀音寺】	【大徳山觀音寺】	【大徳山觀音寺】	【大徳山觀音寺】	【大徳山觀音寺】	【大徳山觀音寺】	【大徳山觀音寺】	【大徳山觀音寺】	【大徳山觀音寺】	【大徳山觀音寺】	【大徳山觀音寺】	【大徳山觀音寺】	【大徳山觀音寺】	【大徳山觀音寺】	【大徳山觀音寺】	【大徳山觀音寺】	【大徳山觀音寺】	【大徳山觀音寺】	【大徳山觀音寺】	【大徳山觀音寺】	【大徳山觀音寺】	

「尾張西国三十三所巡礼」札所のいふ（目録）

10

第十二番		第十三番		第十四番		第十五番		第十六番		第十七番		第十八番		第十九番		第二十番		第二十一番		第二十二番		第二十三番																																			
A	朝日さす夕日かゝやく岩やとういづもたへせぬ松風の音	A	後の世をねかふる心はかるく井仏の誓おもき石山	A	いづくしみなをたのむ皆人はやすき国にぞ生なすらん	B	いづくしみなをたのむみな人はやすき国にかむまれなすらん	D	のちのよをねごころはかるくとも仏のちかひおもき石山し	A	父母のめくみもふかき宮谷の願だからをゑるぞめてたき	B	父母のめくみもふかきみやたにのねかふだからをゑるぞめてたし	D	ちうはくのめくみもふかきみや谷のねごころをゑるぞめてたき	A	ふたらくはよそにはあらじ観音寺埜のみちろを見るにつけても	B	ふたらくはよそにはあらじ観音寺埜のみちろをみるにつけても	D	ふたらくをこそにもうつすくわんおんしをみちびと見るにつけては	A	くわんおんへ参る心は蓮華の花のうてなには紫の雲	B	観音へ参る心ははちすはな花のうてなにはむらさきの雲	D	くわんおんをまひる心はちすはな花のうてなむらさきのくも	A	すしやと養もよしき法の寺仏の誓だのもしの宮	B	もり山のもりもゆか敷のりの寺仏のちかひたのもしのみや	D	すしやととりもゆかしく法の寺仏ちかひたのしきみや	A	急人つねに行へき露の連だのむ斗にまいる此寺	B	いそけ人終に行へき後の世をだのむはかりに参る此てら	D	いそけ人つひに行へき露のみわたのはかりにまひる此寺	A	ありかたや千手の道はちかくして浄土の道におもむきぞする	B	ありかたや千手の道は近くして浄土の道にをむきぞする	D	ありかたやせんじゆの道はちかへして浄土の道におもむきぞする	A	はるくとあゆみをはこぶ観音寺へくらからぬ我を頼よ	B	はるくとあゆみをはこぶ観音寺へくらからんわをたのめよ	D	はるくとあゆみはこぶくわんせおんすへくらからんわをたのめよ	A	我たのむ人をたすけん方便は千手かいけに光かゝやく	B	われたのむ人をたすけんほうんはんは千手かいけにひかりかゝやく	D	我たのむ人をたつげんほんはんはせんしゆかいけにひかりかゝやく
【御詠歌欠】		【浄江山龍照院】		【白華山文慈院】		【天桂山廣濟寺】		【鳳凰山甚目寺】		【長沼山万徳寺】		【雲山龍潭寺】		【大香山桂林寺】		【龍尾山寂光院】		【愛藤山小松寺】		【久保山昌陽院】		【大寿山玉林寺】																																			
普陀落やよそにはわらし 観音寺汐のみちひき 見るにつけても		すみわたる瀬尾の里のかにえ山 法のみむるに光たづねて		白き華照す波間の月かけに 大慈大悲の鐘の聞ゆる		諸人を広く済わん御仏の 授けたまひし道ぞ尊とけれ		御仏は折らずとも守ります こむる誠をうけざらめやは		観音の誓いも深き万徳の 功德妙えなる尊きの寺		六つの連だまどかれと折るのみ 彼岸に渡らん共に手を取り		たのもしなめぐみの中に つしまれて暮す明日の 光りとぞなる		なるみがた鹿のつがおに へだてなくいさやなびかむ くさなきのみや		山高き小松にかゝる藤波は むかへの雲の香るかぞを見る		山深き久保のみ寺に慈悲のみ手 ちかいは深き谷川の水		ありがたや玉の林に みほとけの声やすがたの みちあふれたる		【大寿山玉林寺】																																	

第二十四番			第二十五番			第二十六番			第二十七番			第二十八番			第二十九番			第三十番			第三十一番			第三十二番			第三十三番			末詞																																	
A	朝日さす夕日かゝやく庭萩のいけすみよしの寺ですき	D	あひさす夕日かゝやくにははきのいけすみよしの寺はすしき	A	かけそめし法の舟橋打渡り安たのしむ寺に着けり	B	かけそめしりの帆はし打渡りやすくだのしむこのてらにつく	D	かけとめしりのりふなはしうらはたり安くだのしむ寺へつきける	A	さはりなく迷の雲の雲晴て大慈大悲の誓願し	B	さはりなく迷ひの雲の空はれて大慈大悲のちかひたのもし	D	さわりなくまよひ雲のぞらはれて大きし大ひしちかいたのもし	A	野をも過里をも行てあふみと寺へまいるも後の世のため	B	野をも過里をも行てあふみとの寺へまいるも後の世のため	D	のうすきさ ^(うす) と ^(き) を ^(うす) 行ておふみ堂寺へまひるもの ^(うす) のため	A	観音は誓あたらたのれんみやうし深くたのおえ後の世のため	B	観音のちかひあらたのれんみやうしふかくたのめよ後の世のため	D	くわんおんはちかひあらたのれんめうじ	A	むねにあり常の蓮の花きよきにこりにそみぬ我身人の身	B	むねにあるつねのはちすの花き□くにこりにぞめし人も我身も	D	むねにあるつねのはちすの花きよきにこりにとまぬ我身成らん	A	後の世を安くたのむ有仏道引給へ御手のかすし	B	後の世をやすくだのしむありほとけみちひき縮へみてのかすし	D	のちよをやすくだのしむのりてらみちひくたまへに世のかすし	A	いままでの思ひしことは小西てらはらいをなせよ後の世のため	B	このほとけの思ひし事は小西寺あしてをはこゝ後の世のため	D	今まてはおもひしつみは小西寺はこひをなせす後のよのため	A	ぼんのふのあかは流し清水の雲なき月の影ですき	B	ぼんなふのあかは流し清水の雲なき月のかげでふしき ^(うす)	D	ぼんのうのあかりなかれし清水のくまなき月のかけそすしき	A	鳴海かた鹿のつくおにへたてなしやなびかん草なきの宮	B	なるみかたしかのつくをにへたてなしやなびかん草なきのみや	D	なるみかた鹿のつくおにへたてなきいざやなひかりくさなきの宮	A	道法合五拾八里 名護屋ヨリ□□□ナリ	B	一宮 福寿院亮通	D	南無大慈大悲觀世音菩薩程かく十罪五逆淨目他平等
【小牧山龍音寺】 小牧なる飛車の山の狩人が 八つある鹿を七つしいしかな			【松洞山龍泉寺】 みな人はこの山かげを たのめたつたつのいづみの あらんかきりは			【大昌山宝泉寺】 ひとすじにいのこゝろや みほとけのちかひのいとを ながくひくらん			【医王山慶昌院】 鷹ばし法の光に縁濃く 松も昌えて仏の在す			【雲霧山長母寺】 今もなほ宿木に櫛芽をなして 永く伝えん木質崎の里			【天長山八国寺】 なむやなむかんのんさつに いのらなん二世あんのんを さすけたまへと			【東岳山善福院】 商亮も栄えゆくらん善福院 御柳にすがる我をたすけて			【海潮山聚福院】 長久手の丘に建てたる寺御堂 まつれる菩薩聖觀世音			【音聞山仏地院】 春は花秋はもみじの色映えて 仏の国土かくもあらなむ			【八事山興正寺】 名も高き尾張高野の八事山 塔にたなびく法の雲影			なし																																	

おわりに

元禄十六年（一七〇三）に記された名古屋市蓬左文庫蔵『尾張三十三所観音札所・御城下順礼所』の末尾には、次のようにある。

夫大慈大悲の光は、天地に満四海を照す。徳の高きを自域にて比せんとすれ共、筆端には不尽、靈驗靈夢の衆となる。時しらぬ山の雪ふり積る消すみ絶ぬる如し。抑、此順礼、性空・仏眼・徳道の三聖、初て修行します。誠に千手の瑞驗万珠なれば、記するに
かたし。今爰に不思議をおもん見るに、塙の何かし妻、痼疾に浮沈有しに、夫婦志を一にして、専修に祈を掛まくも恭しや。観

世音の瑞驗あらたに顕れ、快なりぬ。此札に尾陽城下におゐて三所順礼を初奉らんと云しに、其友の曰、ふ思議成哉、予と又外に壻人、此口すさひを聞に、事□□毫もたかはさる事有により、予も順礼を修せんと也。愚、又其外未残詳に聞に、是他の事に非ず。彼古への三聖の涙、袂をうるを□□^{廣力}を合す。誠に心合、衆に通すると歟。此道を修行せん輩は、二世安樂疑なし。然ば、しる処つたなき言の葉をも顧す、唯、其精誠を三十一文字につらぬく。御闡に上て、是をそのふ。天下泰平、国土安穩、武運長久。

元禄十六癸未天三月日写之者也。

塙何某の妻が長く患っていた病状が安定しないため、病気の回復を願ひ、志ひとつにただただ祈っていたところ、観音の瑞驗が表れて、病が快癒したという出来事があり、そのお札に城下では三十三所巡礼

が始まったと当時伝えられていたようだ。この本には、先に述べたように「尾張西国三十三所巡礼」札所と併せて、北野山真福寺、堀江山長谷院、巻窓院、慈眼山千手院、氏政山隆正寺と続く「御城下順礼所」の三十三所についても記されている。『張州年中行事抄』には、同様の札所が「府下三十三所順礼札所」として記されており、冒頭に「此順拝は塙氏の何某の室女の病疾を折に、瑞驗新にして身心快く成ぬ。因て府下三十三所の観音を順拝するの権輿となりぬ」とある。このことから、この靈驗譚は「尾張西国三十三所巡礼」ではなく「府下三十三所順礼札所」の由来として伝えられていたものと考えられる。しかし、このような庶民が日常生活の中で身近に体験した奇蹟と利益が巡礼のはじまりとして語られている点は興味深い。

今後は引き続き、札所がどのように形成されていったかについて、「尾張西国三十三所巡礼」の各札所の寺院史料を確認しつつ、検討していきたいと考えている。

（謝辞） 閲覧・掲載の御許可を賜りました名古屋市蓬左文庫および小山正文師に、記して御礼申し上げます。

（研究紀要編集部は、編集発行規程第五条に基づき、本原稿の査読を論文審査委員会に依頼し、本原稿を本誌に掲載可とする判定を受理する。二〇一年一〇月一日付）

【参考資料】名古屋市蓬左文庫蔵『尾張西国順拝地図』一枚

